

第 1 章

通級指導担当の主な業務



1 通級による指導って？

通級による指導

通級による指導は、各教科等の授業を通常の学級で受けながら、障害による学習上又は生活上の困難さの改善・克服に必要な特別の指導を、特別の指導の場で受ける教育の形態です。

発達障害を対象とした通級指導教室には、学習障害（LD）、注意欠陥多動性障害（ADHD）、自閉症などの児童生徒が通ってきます。

在籍学級担任と通級指導担当が連携して指導に当たり、児童生徒が在籍学級において力を発揮することを目指します。

通級の形態

通級の形態は、主に三つあります。

「自校通級」

在籍する学校に設置された通級指導教室に通う形態

「他校通級」

他の学校に設置された通級指導教室に通う形態

「巡回による指導」

通級指導担当が他の学校に設置された通級指導教室に出向き、指導を行う形態

※「通級指導教室のイメージマップ」（P. 2）参照

教育課程

通級指導教室では、特別支援学校学習指導要領に示されている「自立活

動」の目標や内容を参考とし、具体的な目標や内容を定め、指導を行います。

単に各教科の学習の遅れを取り戻すための指導に陥ることのないよう留意しなければなりません。「障害に応じた特別の指導は、障害による学習上又は生活上の困難を改善し、又は克服することを目的とする指導とし、特に必要があるときは、障害の状態に応じて各教科の内容を取り扱いながら行うことができるものとする。」と改正されました。

※「学校教育法施行規則第 140 条の規定による特別の教育課程について定める件の一部を改正する告示」（平成 28 年文部科学省告示第 176 号）

通級による指導は、自閉症の児童生徒は、年間 35 単位時間から 280 単位時間を標準としています。学習障害（LD）及び注意欠陥多動性障害（ADHD）の児童生徒については、年間 10 単位時間から 280 単位時間が標準です。（小中学校）

高等学校の障害に応じた特別の指導（自立活動に相当する指導）は、単位認定を行うことができ、2 以上の学年にまたがって認定することもできます。修得単位は年間 7 単位まで認められています。特別な指導に係る修得単位を、選択教科・科目に替える場合と、加える場合の 2 種類があります。

※「第 4 章 自立活動」（P. 62～）参照

2 1年間の主な業務にはどんなことがあるの？

1年間の主な業務の中には、年度始めにやるべきことと、指導開始後から年度末にやる場合があります。どのようなことを、いつまでにやったらいいか、1年間の主な業務を確認してみましょう。

【年度始め】

◎情報の確認

- ☐ 前任の通級指導担当、支援員との引継ぎ（面会、電話、資料）
- ☐ 新規に入級してくる児童生徒についての引継ぎ（これまでに関わった教育機関、就学支援委員会などの資料）

◎教室環境の整備

- ☐ 安全面の確認（机、椅子、棚、ロッカー、遊具、教具など）
- ☐ コーナーの設置（学習コーナー、プレイコーナー、くつろぎコーナーなど）
- ☐ 保護者の待機場所（控室）の設置

◎通級指導教室経営書や年間計画、週指導計画の作成

- ☐ 通級指導教室運営に関する説明資料等の作成、確認（P. 76～79 参照）
- ☐ 年間計画の作成（保護者会、在籍学校訪問、通級便りの発行計画など）
- ☐ 週当たりの指導時間数の検討
- ☐ 週指導計画の作成（P. 15～16 参照）

◎在籍学級担任、在籍校の特別支援教育コーディネーター等との年度始めの情報交換

- ☐ 児童生徒への指導日、時間の確認
- ☐ 第1回目の在籍校との懇談連絡会の日時確認

◎通級指導教室への来級方法、緊急時の連絡手段の確認

- ☐ 誰とどのような方法で通うのか
- ☐ 「通級指導担当→保護者」への連絡手段
- ☐ 「保護者→通級指導担当」への連絡手段

◎児童生徒の実態把握

- ☐ 観察（在籍学級での様子、通級指導教室での様子）
- ☐ 面談（保護者、在籍学級担任など、児童生徒や保護者の願いの把握を含む）
- ☐ 心理検査の結果確認（WISC K-ABC DN-CAS など）

◎通級指導教室での個別の指導計画の作成

- ☐ 児童生徒の実態の記入
- ☐ 長期目標、短期目標の設定
- ☐ 指導内容、指導方法の検討

【指導開始後】

◎指導の実施

- ☐ 指導に向けての実態の再把握
- ☐ 目標、指導内容の設定
- ☐ 個別の指導計画の作成
- ☐ 指導方法の工夫、教材・教具の準備
- ☐ 評価規準の設定
- ☐ 評価（成果と課題の分析）



〈研究協力校教室掲示より〉

◎保護者との連携（P. 32～38 参照）

- ☐ 実態の再把握のための情報収集
- ☐ 通級による指導の目標や指導内容、指導方法などの指導方針の説明
- ☐ 児童生徒の変容についての情報共有
- ☐ 有効な手立ての紹介
- ☐ 家庭での関わり方などの検討、助言

◎在籍学級担任との連携（P. 32～38 参照）

- ☐ 実態の再把握のための情報収集
- ☐ 通級による指導の目標や指導内容、指導方法などの指導方針の説明
- ☐ 児童生徒の変容についての情報共有
- ☐ 有効な手立ての紹介
- ☐ 在籍学級での指導方法などの検討

◎関係機関（医療、福祉など）との連携（必要に応じて）（P. 32～38 参照）

- ☐ 関係機関における児童生徒の様子や支援方法についての情報収集
- ☐ 通級指導教室における児童生徒の様子や指導内容についての情報提供
- ☐ 支援方法や役割分担の共通理解

◎進路先との連携（必要に応じて）

【年度末】

◎指導の記録

- ☐ 年間評価（成果と課題の分析）

◎指導終了・継続の判断

- ☐ 校内就学支援委員会に提出する資料の作成

◎引継資料の作成

- ☐ 1年間の指導の内容、児童生徒の変容、有効な手立てなど
- ☐ 次年度の指導の方針

◎通級指導教室での指導が終了する児童生徒への配慮

- ☐ 児童生徒の現状と在籍学級での支援について、在籍学級担任と共通理解
- ☐ 児童生徒の現状と家庭での関わり方について、保護者と共通理解

※学校の実態によって時期が異なります。

3 教室環境って、どうすればいいの？

通級指導教室に通う児童生徒が、安心して過ごすことができる環境を整えることが大切です。必要に応じて、学習コーナー、プレイコーナー、くつろぎコーナーなどを設置しましょう。児童生徒の特性に合わせた環境づくりが必要です。例えば、外部の刺激を減らすために、カーテンやパーティションで仕切るなどの工夫が考えられます。また、保護者のための待機場所(控室)なども用意すると良いでしょう。

学習コーナー

学習コーナーには、机や椅子を準備し、学習に必要な文房具などを置いておきます。

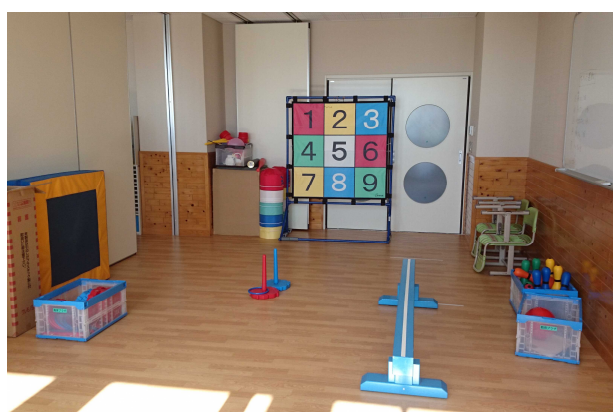
机や椅子は、児童生徒の身体の高さに合ったものを準備しましょう。児童生徒用、通級指導担当用の他に、教材を置く机などを準備すると便利です。



プレイコーナー

プレイコーナーは、軽い運動や身体を使った指導ができる場所です。場所が確保できないときは、学習コーナーと共用しても構いません。

ボール、トランポリンなどの児童生徒の学習に必要な教材・教具も準備します。



くつろぎコーナー

気持ちが高ぶったときに落ち着いたり、集中して学習した後に休憩したりする場所です。ソファを設置する場合もあります。

本を読んだり音楽を聴いたりできるようにするなど、児童生徒に合わせて、必要な環境を整えます。



保護者の待機場所(控室)

送迎や参観で来校した保護者が待機できる場所を準備します。

写真の待機場所は、マジックミラーになっており、指導の様子を参観しながら内容を共有することができます。待機場所には、本やお便りを置くことで、保護者への情報を提供する場としても活用します。



本時のスケジュール表

学習の流れが分かると、安心して学習に取り組むことができる児童生徒がいます。

- ・どんな学習を、どの順番でやるのか
- ・休憩はいつとれるのか
- ・最後に好きな活動があるのか

など、見通しをもって取り組めるように、児童生徒の実態に合わせて工夫しましょう。

5月18日(木)の予定		
日程		
	あいさつ・今日の日程確認	
1	先生からの質問	
2	①	バランスボール
3	②	風船打ち
4	③	ラビリンス

その他

その他に、以下のような視点で環境を整えましょう。

- ・安心して通うことができるように通級時の入室の方法を検討する。
- ・学習を楽しみにできるような教材を準備する。
- ・校内の児童生徒や教職員が、通級指導教室の取組を理解できるような掲示をする。



〈児童生徒や保護者への安心感を促す掲示の例〉

4 年間行事予定や週指導計画は、どうやって立てるの？

通級指導教室の年間計画の作成

通級による指導は、通級指導担当と該当の児童生徒だけでなく、在籍学級担任や保護者をはじめ、関係者と連携して進めていくことが大切です。学校行事と関連させながら、以下のような機会を是非設定しましょう。

◎「児童生徒の指導」に関すること

学習交流会…個別の指導日以外に児童生徒を集めレクリエーション等を行う会

◎「保護者との連携」に関すること

保護者会…保護者との情報交換や進路指導、家庭での対応等に関する学習会

個別面談…指導に関する個別で行う面談

広報等…通級指導教室での様子等を通級便り（P.80、81 参照）として配布

◎「在籍校との連携」に関すること

連絡会…在籍学級担任、特別支援教育コーディネーター等を交えた情報連絡会
（必要に応じて開催する場合もあります）

参観会…在籍学級担任が通級による指導を参観します

在籍学校訪問…在籍学級での様子の参観、実態の把握

指導報告書配布…半期ごとの指導の状況、成果、課題等の記録の報告

◎「地区の通級指導担当との連携」に関すること

地区担当者会…地区内の通級指導担当との情報交換

担当者研修会…通級指導担当の資質、専門性の向上に関わる研修会

年間計画例（前期・後期制の場合）

月	児童生徒の指導	保護者との連携	在籍校との連携	地区担当者との連携	広報等
4	↑ 教室開き・前期開始	保護者会①	連絡会①		通級便り
5	↓	個別面談①	在籍学校訪問①	地区担当者会①	
6					
7	学習交流会①	保護者会②	参観会①		通級便り
8	夏期休業		連絡会②	担当者研修会①	
9	前期終了	個別面談②	指導報告書配布①		
10	後期開始				通級便り
11			在籍学校訪問②	地区担当者会②	
12	冬期休業 学習交流会②	保護者会③		担当者研修会②	
1			参観会②		通級便り
2			連絡会③	地区担当者会③	
3	後期終了	個別面談③	指導報告書配布②		通級便り

週指導時間割の立案

通級による指導では、学年、障害の状態、学習上又は生活上の困難さの程度などの実態を基に、個々の指導時間を決定します。個別指導を中心に行いますが、必要に応じてグループ指導と組み合わせることが効果的な場合もあるので検討しましょう。

（個別指導・グループ指導については第2章4参照）

他校通級の場合は往復の移動時間も考慮して、児童生徒の負担にならないよう配慮しながら、優先的に放課後や朝の最初の時間帯に指導時間を設ける、1コマの指導時間を2時間続きにするなどの工夫ができます。学習をできるだけ良い条件で実施できるよう、可能な限り早い時期に在籍校の校長・教頭や教務主任などと調整するとよいでしょう。その場合、全体的な指導時間とのバランスを取りながら計画することが大切です。職員会議や在籍校との連絡会、地区担当者会の時間等もあらかじめ設定しておく、効率的に実施できます。

週指導計画は1年間固定のものではなく、児童生徒の実態に合わせて変えていくこともあります。

〇〇小学校〇〇通級指導教室 週指導時間割例

※個：個別指導 グ：グループ指導

曜日	月	火	水		
I 8:40～9:25	個（A児）	個（D児）	個（I児）		
II 9:50～10:35	個（N児）	個（P児）	個（I児）		
III 11:00～11:45	個（B児）	個（E児）	個（R児）		
IV 13:00～13:45	個（O児）	個（Q児）	個（S児）		
V 14:10～14:55	個（C児）	個 隔週 （G児／J児）	個（F児）		
VI 15:20～16:05	個（H児）	グ（A児L児）	職員会議（1週） ／教材研究		

5 在籍学級との情報交換はどのようにするの？

通級による指導の効果を上げるためには、関係者間の共通理解と連携が重要です。年間を通じて情報交換をしながら進めていきます。特に、年度始めの週指導計画や個別の指導計画、校内の共通理解を図るための情報交換や調整を確実に行うことが年間の指導をスムーズに実施していくための重要なポイントとなります。前年度末から計画的に準備しておくなどの工夫も必要となります。他校と連絡を取り合う際には、事前に校長・教頭等と相談しながら進めていくようにします。

週指導計画立案のための情報交換

週指導計画は、通級指導教室と在籍学級の時間割が児童生徒にとって負担にならず、効果的に指導できるように立てます。児童生徒によっては「服薬の関係で午前中の方が集中できる」などのケースもあります。必要に応じて、前年度末に希望調査を行うなどして、指導時間をあらかじめ検討しておくことができます。

最終調整は新年度になってから、在籍学級担任との間で行い、最終的には在籍学校への文書をもって通知します。

※「第5章 巻末資料1 書式例(3) 通級による指導の指導時間の希望」(P.82、83)

「第5章 巻末資料1 書式例(4) 通級による指導の指導時間について」(P.84)

資料1 指導時間希望調査の例

				日付	
□□学校長 様					
				○○学校	
対象児童・生徒				学年氏名△△△	
通級による指導の指導時間の希望(回答)					
記					
順位	番号	時間帯	理由		
1	①	月 8:40～	服薬のため		
2	⑪	火 14:10～	送迎の都合		
週指導時間					
時間帯・曜日	月	火	水	木	金
8:40～9:25	①	⑦	⑬	⑱	⑳
9:50～10:35	②	⑧	⑭	⑲	㉑
11:00～11:45	③	⑨	⑮	㉒	㉓
13:00～13:45	④	⑩	⑯	㉔	㉕
14:10～14:55	⑤	⑪	⑰	㉖	㉗
15:20～16:05	⑥	⑫		㉘	㉙

資料2 指導時間のお知らせの例

				文書番号	
				日付	
○○学校長 様					
				○○学校長	
○年度通級による指導の指導時間について(通知)					
下記のとおり決定しました。					
記					
通級による指導を受ける児童(生徒)及び指導時間					
学年	氏名	通級経験	曜日・時間		
2年	○○ ○○	新規	月 8:40～		
3年	○○ ○○	新規	月 14:10～		
5年	○○ ○○	継続	水 11:00～		
6年	○○ ○○	継続	金 14:10～		

通級による指導について校内で共通理解する

通級による指導を受ける児童生徒の在籍学級担任はもちろん、校内の全教職員が、目的、児童生徒の実態、指導・支援内容を理解しておくことが大切です（下図、「在籍学級担任への連絡事項例」参照）。

校長・教頭等に相談して、年度当初の職員会議などで通級による指導について説明することも大切です。他校通級の場合は、通級指導担当が訪問して直接説明してもよいでしょう。両校の校長・教頭等と相談しながら計画していきます。

在籍学級担任への連絡事項例

〈在籍学級担任へのお願い〉

〇〇立〇〇学校通級指導教室担当

【連絡ノートについて】

保護者、在籍学級担任、通級指導担当の間で連絡ノートを回します。通級指導担当よりその日の指導内容を伝えますので、在籍学級担任からは児童生徒の様子などをお知らせください。通級による指導の際は必ず持たせてください。

【在籍学校訪問について】

年2回実施し、授業の様子を参観し、通級による指導に役立てます。

【連絡会について】

年3回、在籍学級担任等と共通理解を図るための連絡会を開催します。1回目3回目は在籍校にて、2回目は本校で行います。

【学習の補充について】

通級することによって受けられなかった学習の補充をお願いします。「今日はこんなことをしたよ」とか「家でこれをしてみてね」と言っていただくだけでも、保護者や児童生徒は安心します。

【指導時間の変更について】

学校や学級の行事等が通級による指導の時間と重なる場合は、できるだけ早く連絡をお願いします。

【周りの児童生徒への働き掛けについて】

保護者と本人の了解が得られた場合は、通級していることを学級の児童生徒に説明してください。周りの児童生徒の理解や協力が、指導効果を高めます。

必要があれば、通級指導担当が在籍学級児童生徒に対して通級指導教室の説明をすることも可能です。